

氏名	青 木 清
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1996 号
学位授与の日付	平成12年3月25日
学位授与の要件	医学研究科外科系整形外科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Utility of MRI in detecting obstacles to reduction in developmental dysplasia of the hip: comparison with two-directional arthrography and correlation with intraoperative findings (先天性股関節脱臼の整復障害因子判別におけるMRIの有用性：二方向関節造影との比較および術中所見との関連)
論文審査委員	教授 平木 祥夫 教授 村上 宅郎 教授 田中 紀章

学位論文内容の要旨

観血的整復術を施行した先天性股関節脱臼36例38股（完全脱臼23股、遺残亜脱15股）について、術前のMRIと股関節造影及び術中所見を比較し、整復障害因子の判別に関するMRIの有用性について検討した。MRIはT1強調画像水平断および冠状断を用いた。関節包内整復障害因子として臼底介在物、関節唇（前方、上方、後方）に着目した。完全脱臼、遺残亜脱とも前方関節唇の形態の描出に関しては、MRIは関節造影とほぼ同等に有用であった。後方関節唇に関しては完全脱臼例においてMRIが優れていた。関節唇部分切除を行った10標本中、術前のMRIにおいて通常と輝度の違う中輝度を示していた4標本では全て血管のbudding、血栓の器質化などが認められ、何らかの外力が加わった肉芽形成と考えられた。MRIは先天性股関節脱臼の整復障害因子を把握する上で有用であり、形態学的異常のみならず組織学的な異常に関しても有用であることが証明された。また、将来、MRIが先天性股関節脱臼の術前関節造影にとって変わる可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

先天性股関節脱臼（以下先股脱）においては、観血的整復術前に整復障害因子を把握することが重要であり、本研究では先股脱36例38股について術前のMRIと股関節造影及び術中所見を比較検討したものである。その結果、MRIは先股脱の整復障害因子である臼底介在物、関節唇を把握する上で有用であり、形態的異常のみならず組織学的異常に関しても情報が得られることを明らかにした。これらは、本症の術前診断法に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。